

I-BUBU・I'ME・X-HOT125/150・G-MAX220

簡易故障診断機イージーチェッカーによる故障診断

簡易診断機 イージーチェッカーを用いた故障診断方法を説明します。

I-charge において初採用された PGO のインジェクションシステムは自己診断機能を持つ EMS システムにより各センサー等で故障が発生した場合ユーザーに故障状況を知らせる機能と共に診断機を用いて故障箇所を簡単に特定出来る機能を持ちます。診断機は PDA 診断機と簡易診断機が有り、I-charge の場合簡易診断機では診断は出来るものの修理後の故障履歴の消去が出来なかった為、毎回 PDA 診断機を使用する必要がありました。

これに対し進化した EMS システムでは簡易診断機でも故障履歴を消去できるようになった為、PDA 診断機を使用しなくても診断作業が完結出来るようになりました。

※ I-charge については専用の PDA 診断機が必要の為、専用の取扱説明書にて説明しております。

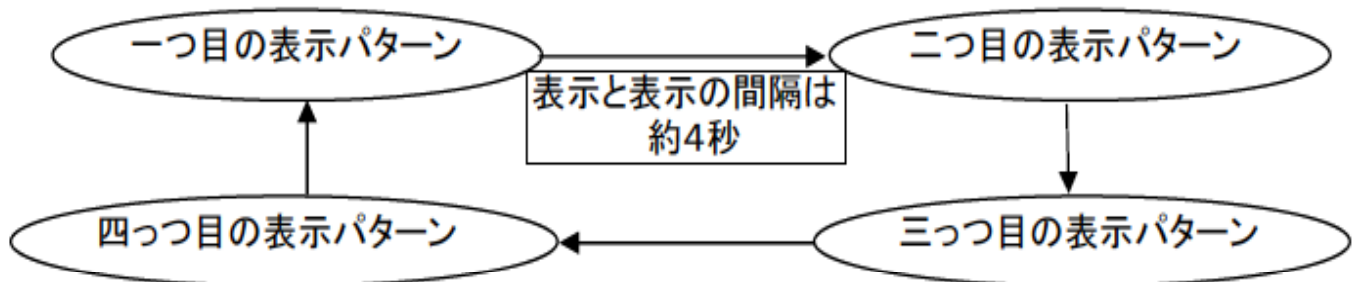
簡易診断機 イージーチェッカーの使用方法

診断の条件として電源の安定を確保する必要があります、バッテリーが上がった状態では EMS が作動せず、自己診断回路が働かないので診断が出来ません、バッテリーが上がっている場合は別のバッテリーに交換する等、電源の安定を確保して下さい。

- ① 診断機接続端子の保護キャップを外して下さい。
- ② 簡易診断機 イージーチェッカーを位置合わせの凹凸が合うようにして接続端子に差し込みネジで固定してください。
- ③ メインキーを “ON” にしてメーター内の EMS チェックランプの点滅パターンを見る。



診断の手順は以上です、EMS チェックランプの点灯は故障箇所が複数の場合順番に点滅表示します、例えば4箇所故障を認識していた場合は4パターンを繰り返し表示します。



故障診断結果の点灯パターンが示す故障箇所は次の通りです。

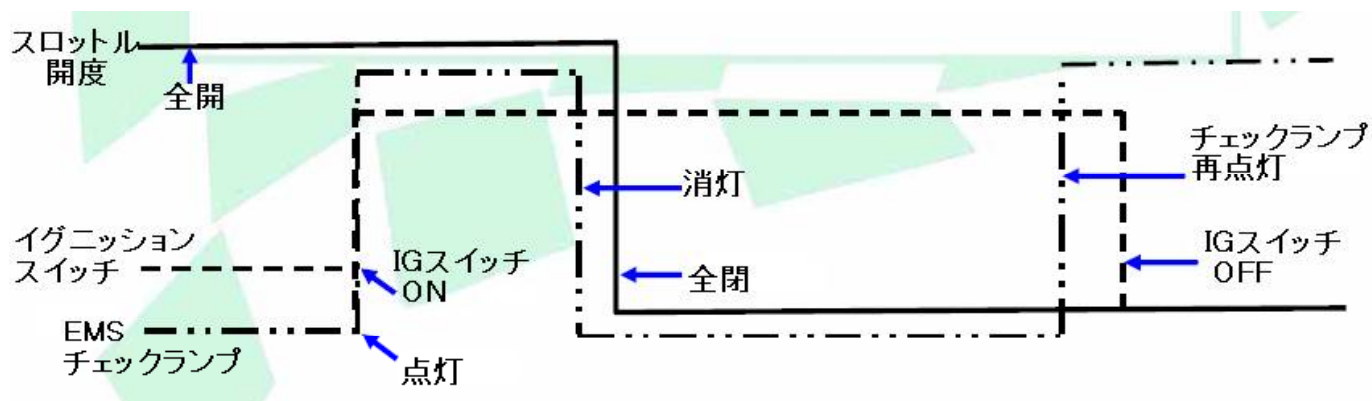
故障箇所	点滅パターン
スロットル開度センサー	0 長 6 短
マニホールド負圧センサー	0 長 9 短
エンジン温度センサー	1 長 1 短
O2 センサー本体	1 長 7 短
インジェクター回路	3 長 3 短
IG コイル回路	3 長 7 短
フューエルポンプ	4 長 1 短
O2 センサー回路	4 長 5 短
ISC モーター	4 長 9 短
クランク角度センサー	6 長 6 短
ECU 本体	常時点灯
正常	消灯

EMS で管理している部分以外の診断は出来ません、つまり上の表の内容だけが診断で判る故障箇所となります、一般的な回路の配線の断線等は診断できませんのでご注意ください。

診断により故障箇所の特定が出来ましたら修理を行っていただき、最後に EMS 内部に残っている故障履歴を消去する必要があります、消去の手順は以下の通りです。

簡易診断機 イージーチェッカーを取り付けたままで作業して下さい。

※ 左から右へ時間が経過している図です。



スロットル全開でスイッチを ON にし、インジケータランプが数秒間点灯後に消灯するので消灯したらスロットルを全閉にして下さい。次に故障表示の為にインジケータが点滅を始めたらスイッチを OFF にして完了です。

この手順の終了後に再度簡易診断を行い EMS チェックランプが点灯しない事を確認して下さい。再度故障の点滅を示した場合は消去出来なかったと思われるので再度消去を行ってください。